

## 知事と区市町村長との意見交換（福生市）

令和 1 年 10 月 7 日（月）

16 時 30 分～16 時 50 分

○行政部長 それでは、早速でございますが、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 御多用の中、加藤市長には御足労いただきまして、誠にありがとうございます。今、ラグビーワールドカップ、そして来年の 2020 年大会と大変大きなイベント、一つずつ進めているところですが、その後も含めて長期戦略を練っているところでございます。

福生市の抱えておられる課題と、それからその先についてお話を伺いたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○行政部長 では加藤市長、お願いいたします。

○福生市長 知事におかれましては大変お疲れだと思っておりますけれども、ちょうど今真ん中ぐらいが私どもの市になっております。よろしくをお願いいたします。

早速ですけれども、2 点ほどお願いをさせていただきます。前回の懇談の際にもお話をさせていただきましたけれども、西多摩の玄関口である私ども福生市。平成 14 年から人口減少に転じた東京都内の区市の中でも一番早く人口減少に転じておりまして、一番多い時には 6 万 2,500 人ございました。今 5 万 8,000 人ということでございますので、なんとか昔の商業のまち福生というものを取り戻そうというふうに、民間主導で福生駅西口地区の新たな地域拠点整備への転換を図っているところでございます。

これに対しての支援のお願いでございますけれども、まず資料の左側が今、現状でございます。そして今のその駅前のロータリーを含めて右、図面から右の方が全部都道でございます。

この都道をなるべく早く市に移管していただきながら、そして新たな拠点づくりをしていこうということを、今、考えておるところでございます。飽くまでも民間主導でございますけれども、様々な公共施設がもう 40 年から 50 年経過して、各地に点在しているところでございますので、それを一気にその駅前の方に合わせまして、体育館機能、あるいは図書館機能、そして子育ての機能を含めまして、公民館機能も改めてすることによって、この駅前の地域も大変な老朽化にあっていますので、災害に対しての準備とか、そういう部分も含めてここを早くやっていきたいというふうに思っております。

市民の居場所づくり、賑わいもつくり出そうということでございますが、ぜひ安心して歩いて暮らせるまちのヒューマンスケールのまちという、新しい概念でのまちづくりを目指しているところでございます。

民間主導でございますので、今、やっとその準備組合が立ち上がったところでございますので、この機を逃してはいけないということで、スピード感を持って取り組んでまいりたいと思っておりますので、なるべく今都市計画決定に向けて建設局等々、お話をさせていただいているところでございますので、ぜひそこのところを早く御決定いただければというふ

うな思いでございます。これがまず1点でございます。

そして多文化共生の2点目の方に移らせていただきます。基地のまちということでございますので、知事も福生のまちに何回もお見えになっていただいて、ありがたく思っておりますけれども、都内26市の外国人人口と外国人比率でございます。

まずは比率から申しますと、もうダントツに1位だということが分かります。5万8,000人のうち3,800人が外国人でございます、しかも国籍も多種多様でございます。60か国ございます。そして特にベトナム人、若い人達が日本語学校がある関係で、非常に多く今訪れていただいて勉強を重ねているところでございます。

そしてこれに対してのやはり言語が14言語ぐらいが入り乱れていますので、なかなかそれに対して行政としても対応に苦慮しているところでございます。今、お陰様でテレビ電話多言語通訳サービスを導入して、12か国の対応はさせていただいています。

また、その他にも外国人のための生活便利帳とか、ごみ等資源の分け方、出し方等、各種案内を多言語で作成しているところでございますが、なかなかやはり細部までに渡って、その外国から来てる皆さん方にうまく対応できているかどうかということは、ちょっと難しいところもございます。

それから、横田基地内の子供達が今幼保の無償化によりまして、外に出てこられて保育とか幼稚園のサービスを受けようとするものが増えてきております。

私ども、一生懸命その人口減少対策をしまして、子育てするなら福生を合言葉に、この4年間待機児童を0にしてなんとか今やってくるんですけど、こういう形になりますと、基地の方の部分はなかなかこれで待機児童が出てくるのではないかとということもございませぬ。

それとどの程度その基地の中で子どもが待ってるかという部分は、ちょっと機密事項なのでなかなか教えていただけないんですけども、今現時点で十数名で約400万円かかることになっていきますので、この後どんどん出てくると、なかなか市としても対応が困難になってくるということがございます。

様々な部分でやはり外国の方が訪れていただくのも、私どもやはりまちの魅力になると思ってますし、これからやはり労働力を強化する部分では非常に大切に扱おうというふうに思ってます。そういう部分で言うと、多言語という部分のみならず、ピクトグラムも使用した各種案内のサイン等をやはり市内は全部つくっていかねばならないのではないかなということも思います。

いろんな形でそういう部分も案内板、サイン等の補助金制度の新設、拡充等を、財政的な支援をお願いしたいということを考えてお願いするわけでございます。

それとなかなかこの対応が困難になってきてますので、AIを活用したチャットボットの導入を検討して、携帯からそのまま言語のサインをできるような形を今考えて、実証実験をこれから行わせていただこうと思ってるんですけど、これもなかなか費用がかさむものですから、ぜひよろしくお願ひしたいということでございます。私からは以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○知事 主に2点あったかと思えます。まず駅前の西口地区市街地再開発事業については、既にお話もあったように、準備組合をつくられてということで、早期に都市計画変更ができるような調整を図っていくように、サポートしてまいります。

それから再開発事業の施行の時は再開発組合等、補助も出しておりますので、事業を支援して、今も事業をしているかと思えます。これからもいろいろと地権者等、ディベロッパーの方々とも連携とかがあるでしょうから、それらの事業の進捗に合わせて、適切な対応を都としてさせていただこうと考えております。

それからすごいですね。ダイバーシティはもう絵に描いたような状況になっていて、そしてその中でもベトナムが突出して多いと。約1,000人ですね。ごみの出し方一つとってみても、やはり教えないと分からないわけですから、そこは例えば今町会の皆さんも地域によってはどんどん住民の中増えていらっしゃって、そういう町会に呼び込んで、そしていろいろと教えていく等、もちろん市役所においてのそういった情報提供もそうですし、日常的には結局ごみの出し方が悪いと、そこで感情的なものが起こったりするのも一番まずいわけです。ですからそういう意味で町会の皆さんとの連携図っていただくということと、生活情報冊子等、都から出しているものも対象言語も多くつくっておりますが、これからは普段使われている言葉で「やさしい日本語」を使うように、「やさしい日本語」で表記された様々な案内書をつくっていくということが必要なかと思えます。

これ全ての言語に対応していったらキリがないので、むしろ日本語というのは、会話は外国人にとって意外と6か月あたりいれば、またテレビとか見ると、微妙な日本語まで使い出す。ですから逆に日本語が共通語になり得るかとも思えます。

そういう意味でダイバーシティのまさしく典型というか、その一番先を行っておられるかのような福生市での生活のサポートについての様々な支援は、都として支援していきたいと思っております。

ちなみに待機児童は、それを基地の方々の子供さんで10名ですか。それは米軍兵なんですか。それとも軍属ですか。軍属も含めて、それはどのような形にするのかですね。でもそれだけ待機児童対策が人気ということもあるんでしょうか。

○福生市長 私どもからすれば、なんとかカバーしていきたい。

○知事 そうですね。人口も残念ながらこのところ減っている、傾向は。5万8,000人ですね。5万8,000人のところをずっと横ばいという感じでしょうか。分かりました。他、何か、折角ですから、お時間がありますのでどうぞ。

○福生市長 私ども、今の2点に集約してお話しさせていただきましたけれども、人口減少が始まっているところでございますので、やはり玄関口であるところの福生市がしっかりとまとまっていかないと、西多摩のよさがPRできないのではないかと思いますので、この西口の再開発も併せて、東口の方は横田基地に道が続いているのですけれども、そこも今一緒に拡幅の事業を展開しております、とにかく基地のまちという負のイメージから、逆に言うところのまちだったら英語がうまく学べるのだとか、あるいは外国語が学べるのだという部分をもっともっとPRしていきたいと思っておりますので、ぜひ特色あるまちづくりを考

えてますので、御支援のほどよろしくお願いを申し上げます。

○知事 いくつか課題をちょうだいしましたし、またこれからも情報交換しつかりしながら連携して進めていきたいと思えます。御苦勞様でございました。

○行政部長 それでは意見交換を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。